

## 5.教員の国際的な活動

### 1)協定校との交流活動

#### (1)ガジャマダ大学（インドネシア）における活動

The Departments of Nursing, Faculty of Medicine, Public Health, and Nursing, Universitas Gadjah Mada が中心となり、本学ならびに Anglia Ruskin University (United Kingdom)、神戸大学 (Japan)、Taipei Medical University (Taiwan)、Mahidol University (Thailand)などの大学が共同して“Bringing Innovation to Strengthen Society for Resilience and Sustainable Healthcare System”をテーマとした The 4th International Joint Conference on Nursing Science (IJCNS) が令和4年10月25-26日に開催された。医療の現場における看護職やその他の医療専門家の育成の重要性について、レジリエンスと持続可能性を高めるためのイノベーションの共有と意見交換が行われた。本学からは、木下真里教授がカンファレンススピーカーとして登壇、中井あい助教がポスター発表、その他教員6名、大学院生9名が参加した。

#### (2)弘光科技大学との活動

弘光科技大学とは、Yann-Fen C. Chao 主任教授をはじめとする護理学部(看護学部)教員と本学教員との頻繁な学術交流を継続している。令和4年度は、前年度に卒業した本学看護学部学生と、弘光科技大学の張彩秀副教授らチームと共同で実施した看護研究「看護師疲労感の評価に関する研究」の成果をまとめた演題は7th WANSに投稿し、採択された。7th WANSは、令和4年10月に台湾で開催され、木下教授が筆頭著者として発表した。今後も研究交流を継続する。

### 2)民間団体との連携

本学は、2020年に国際NGOピースウィンズジャパン(PWJ、本部広島県)との連携協定を締結し、以来、活発な人的交流を継続している。協定は災害に関する活動だけでなく国際プロジェクトに関する研究・技術協力を含み、この国際的な活動に関して、今年度は以下の活動を行った。

#### (1)ミャンマー人道支援

2021年のミャンマー軍事クーデターとその後の人道危機に対する支援活動に関しては、前年度から看護学部・木下教授が保健医療専門家として協力している。米国国際開発庁 USAID の助成については残念ながら不採択となったが、その後継事業は、ジャパンプラットフォーム(JPF)事業として採択、10月から開始された「脆弱な妊産婦への食糧・出産環境改善支援及び国内避難民への食糧・衛生用品等配付事業」。PWJと現地NGOのCommunity Development Association (CDA)が共同で実施しており、紛争中の貧困地域の妊産婦への栄養補助食品および衛生用品の配布が実施された。本事業実施の技術的助言を木下が母子保健専門家として国内から行った。木下の渡航ビザは継続して申請していたが、現地政治情勢の影響から今年度中に発効の見込みがなく、今年度は現地訪問指導は実現しなかった。

#### (2)ネパール山間地域減災プロジェクト

PWJ海外事業部では、ネパール山間部での減災活動のための新たなJICA草の根無償資プロジェクトを計画している。この事業申請にあたっては、PWJだけでなく、愛媛県の防災士、工学専門家が参画しており、そこに高知から本学木下教授が看護に関する専門的助言を行った。さらに、DNGL修了生のSushila Paudel氏を紹介し、現地情報提供を支援した。

このプロジェクトには、本学がこれまでに培った地域共生の実績や中山間地域での活動など、本学の特性を生かした活動が期待されており、実現すれば新たな国際的学術交流の機会を提供することになる。

#### (3)第24回日本災害看護学会シンポジウム

シンポジウム「南海トラフ地震の自助・共助・公助(座長：木下教授)」にシンポジストとしてPWJ Arrowsから当時モルドバに派遣中の新谷絢子氏にご登壇いただいた。

#### (4)看護学部必修科目「グローバル社会と看護I」ゲストスピーカーの招聘

今年度から必修化した本科目では、前身科目で好評であったゲストスピーカーの招聘を継続し、今年度は、科目責任者のネットワークから、PWJ 海外事業部ミャンマー駐在代表辻富紀夫氏に現地から遠隔中継でご登壇いただいた。日本の日常と大きく異なる紛争下の生活のリアルについての講演に、多くの学生が驚きと共に、国際社会に対する関心を深めた。